

## 病害虫発生予察特殊報 第1号

### トマト黄化病の発生について

佐賀県

1. 病害虫名：トマト黄化病

2. 病原名：トマト退緑ウイルス

*Tomato chlorosis virus* (ToCV)

3. 発生作物：トマト



4. 発生の経過と概要

平成29年2月に県内の施設トマト栽培ほ場において下位葉より黄化症状を呈する株が発生した（写真1～2）。そこで、本県農業技術防除センターにおいてRT-PCR法により遺伝子診断を行ったところ、トマト退緑ウイルス（ToCV）が検出され、トマト黄化病であることを確認した。県内での本ウイルスによる病害の発生確認は初めてである。

本ウイルスは、国内では平成20年に栃木県で初めて確認され、その後現在までに関東や九州（熊本県、鹿児島県、福岡県、大分県）を中心に12県で発生が確認されている。

5. 症状および本ウイルスの特徴

(1) 病徴

中位から下位葉の一部の葉脈間が退緑黄化する（写真1）。症状が進展すると、葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化、えそ斑や葉巻症状を生じる（写真2）。生長点付近での症状は見られない。本症状は、マグネシウム欠乏による生理障害に類似している。

なお、発病株は生育が抑制され、収量が減少する傾向が見られる。

(2) 伝染方法

本ウイルスは、タバココナジラミ（バイオタイプB及びQ）及び、オンシツコナジラミによって媒介される。伝搬様式は半永続伝搬（ウイルスを獲得したコナジラミ類は数時間から数日間媒介能力を有する）である。なお、本ウイルスを含むクリニウイルス属は経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染および種子伝染はしないとされている。

(3) 感染植物

本ウイルスは、ナス科、キク科、シソ科、アカザ科、リンドウ科、ゴマノハグサ科、ナデシコ科の植物に感染することが確認されている。

## 6. 防除対策

本病は、トマト黄化葉巻病と同様にコナジラミ類によって媒介されるため(表1参照)、トマト黄化葉巻病の防除対策と同様に以下の対策を実施する。

### 【耕種的防除】

- (1) 発病株は伝染源となるので、見つけ次第、圃場外に持ち出して土中に埋却する等して適切に処分する。
- (2) 施設開口部に防虫ネットを設置し、コナジラミ類の施設外からの侵入を防ぐ。
- (3) 圃場内及び周辺の雑草は、コナジラミ類の増殖源となるので除去する。
- (4) 栽培終了時は、株を抜根した後、施設を密閉して蒸し込み、保毒虫を死滅させる。また抜根した株は完全に枯死させた後、速やかに除去する。
- (5) 圃場周辺の自生トマトは、伝染源となるので、徹底して除去する。

### 【薬剤防除】

- (1) 育苗期からのコナジラミ類の防除を徹底する。
- (2) コナジラミ類薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

コナジラミ類の生態及び防除対策の詳細については「平成28年度 施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき〈麦類・野菜・花き・飼料作物〉(P149~151、P225~227)」を参照する。

表1 トマト黄化病とトマト黄化葉巻病の違い

	トマト黄化病	トマト黄化葉巻病
症状発生部位	中位～下位葉 (生長点付近に症状は出ない)	生長点付近
黄化の現れ方	葉脈を残して、葉の全体が黄化	葉の縁から黄化
進展すると	黄化が進み、一部に葉巻き、えそ症状が見られる	上方向への葉巻き、節間が縮まり叢生する
媒介虫	タバココナジラミバイオタイプ B および Q オンシツコナジラミ	タバココナジラミバイオタイプ B および Q



写真1：施設内における発病状況



写真2：葉の黄化、えそ斑、葉巻き症状

連絡先：佐賀県農業技術防除センター  
病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085